

SSH理数科課題研究発表会

4月25日に理数科課題研究発表会が行われ、理数科生徒10班による研究発表が行われました。理数科では約1年間をかけて、自分たちで研究テーマを設定し、科学的なアプローチでそれを解明すべく研究活動に取り組んできました。高田高校SSH運営指導委員を務める科学のスペシャリストの方々を審査員に招き、チョウのDNAを用いた研究を行った「上越地方のヤマトシジミの mtDNA ND5 領域の研究」班が最優秀賞に選ばれました。それ以外にも、多くの優れた研究が発表されました。ヤマトシジミの研究は、今後長岡で行われる県大会、神戸で行われる全国大会に本校代表として参加する予定です。



【お知らせ】

- ① 県大会は7月25日にアオーレ長岡で行われます。理数科生徒は全員が参加します。
- ② 全国大会は8月9、10日に神戸国際展示場で行われます。
- ③ 来年度の高田高校SSH課題研究発表会は、4月21日(土)の午後より上越教育大学で行われる予定です。保護者の皆様もぜひご参加下さい。

全国へ、世界へ、羽ばたく高田高校生！

○北東アジア環境エネルギーシンポジウム

生物同好会の生徒が本校代表として、県内外のSSH校生徒や海外（ロシア、中国、韓国）の高校生たちと交流しました。

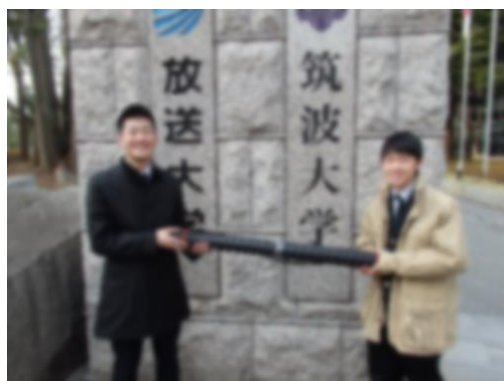
「持続可能な社会に向けて、自然と技術について」というテーマのディスカッションには3年生徒が参加し、2年生2名がポスターセッション（英語）に参加し、ステージ上で議論を繰り広げました。科学的な内容についても、考えを瞬発的に英語で話せることの大切さを感じたようでした。

ポスター発表では、上越地域のギフチョウDNAの変異の分布について、2年生2名が英語で説明をしました。ここ3年間の生物同好会の研究内容の一部をまとめたもので、見事な発表だったと思います。



○第69回日本動物学会関東支部大会

東京で行われた動物学会に生物同好会3年1名と2年生1名が参加しました。公開シンポジウムとポスター発表があり、シンポジウムは「生殖細胞に秘められたパワーを解く」というテーマで、かなり高度な内容でした。筑波大の小林教授の永遠の命を持つ生殖細胞という考え方や、東京海洋大の吉崎教授のキメラを応用してマグロをサバなどから産ませるテーマの講演は知的好奇心を刺激する内容で、参加生徒は「普段の講演会とはレベルが違う」と非常に満足しているようでした。



ポスター発表では、上越地域のギフチョウDNAの変異の分布について、研究者に読んでいただけるように、より専門的な内容で発表を行いました。参加した二名は、専門家の質問に対し、しっかりとした応答を行っていました。特に、生物同好会が参考にしていた論文の筆者と直接お会いし、研究に関する情報を頂きました。他の研究者のポスター発表にも大きな刺激を受け、今後の研究の進め方の参考にもなる情報を得るなど、実りの多い学会参加となりました。